

令和6年度

丸の内小学校 学校努力点

はじめの一歩！みんなで創ろう丸の内小

—「考え、決め、行動」しようとする子どもたちの育成—

名古屋市立丸の内小学校

1 研究主題

はじめの一步！みんなで創ろう丸の内小

—「考え、決め、行動」しようとする子どもたちの育成—

2 主題設定の理由

昨年度より、丸の内小学校として新しい学校生活が始まり、教職員にとっても、子どもたちにとっても、全てのことに“はじめての”が付く丸の内小学校としてのスタートを切った。その中で、子どもたちには自己効力感をもって、新しい学校生活としての一步を踏み出してほしいと願い、子どもたちが相手のことを受け入れ、互いに協力していくことができる子どもたちを育成しようと、主題を「はじめの一步！みんなで創ろう丸の内小」と設定し、「自己指導能力の向上」「安心感のある関わり」「よりよい集団の形成」の要素を軸に実践を進めていった。

昨年度の成果として、学級目標の意識付けや学級集団として協力していこうとする意欲の高まりが見られた。一方で、学習活動が教師主導になってしまい、子どもたちが自分たちで考える機会が足りなかったという課題が見られた。

そこで、今年度は、校訓である「考える、決める、行動する」を柱として、「ナゴヤ学びのコンパス」で重視されている「自律して学び続ける姿」に焦点を置いた実践を行う。

「ナゴヤ学びのコンパス」では、「自律して学び続ける姿」として、

- 興味・関心等に応じ、やりたいことを見付けて取り組む姿
- 学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ姿
- 学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける姿

があげられている。

「自律して学び続ける姿」を学級内で成立させるためには、子どもたちの「分からないから教え合おう」「失敗してもよいからチャレンジしよう」とする互いに助け合い、共感する力が不可欠であるが、これらの力の基盤は、昨年度の学校努力点における実践で子どもたちに培われていると考える。今年度は昨年度に培った基盤となる力を生かし、学級活動で互いに助け合い、共感する力を更に強固なものにしたり、各教科・領域でも「自律して学び続ける姿」が見られるように、子どもたち自身が計画を立て、その計画に基づいて活動や学習を進めたりすることができるようにする。昨年度に培った基盤から、「自律して学び続ける姿」を伸ばしていくことは、今後の丸の内小学校にとって有益な取り組みになると考える。

その際、教師は「子どもは有能な学び手である」（自分のもっている知識をいろいろ関連付けて、自分なりに最も確からしい情報を新しく生み出すことができること）ことを念頭に置き、指示や説明を文字情報でまとめて提供したり、ICTによる学習材の収集と提供をしたりする、学習環境整備を行う。また、子どもたち一人一人の思いや願いを尊重し、子どもたちと対話をする中で、子どもたちの自分なりのチャレンジを大事にする、「子どもたちの学びの伴走者」としての姿を重視して指導に当たる。

我々教職員は、子どもたちに直接教えるという従来の学びや授業のあり方に加え、間接的に学びを促し、支援するというもう一つの学びや授業のあり方についても、考えていく必要がある。子どもの学びに「伴走する」ことにつながる、子ども中心の学びに役立つような支援のあり方についても、今年度の学校努力点の中で模索していきたい。

3 推進の方法と組織

(1) 推進方法

令和6年度学校努力点推進年間計画を基に、各部会で授業実践を検討しながら、実践を進める。

(2) 努力点推進の組織



4 具体的な取り組み

- 「考える、決める、行動する」を柱として、「ナゴヤ学びのコンパス」で重視されている「自律して学び続ける姿」に焦点を置いた実践を実現していくために、自己選択・自己決定する機会を設ける活動や学習を構想し、前期(4～9月)と後期(10～1月)の年間2回以上の授業を設定する。そのうち1回の授業を公開する。
- 授業では、学級活動で互いに助け合い、共感する力を高める実践と、各教科・領域で「自律して学び続ける姿」に焦点を置いた実践の二つを前期と後期に分けて行う。
- 各学級で専科を受け持っている場合は、各教科・領域で「自律して学び続ける姿」に焦点を置いた実践を前期と後期に分けて行う。
- 授業を公開する日程については前期・後期のバランスが部会内でおおよそ均等になるように調整する。
- 授業の公開にあっては、指導略案を前日までに全職員に配布し、部会ごとに参観する。
※ 他の部会の授業についてもスケジュールが調整できれば積極的に参観する。
- 中間報告及び最終報告については指導略案をベースとした形とし、子どもたちの実態・実践の方向性、指導過程、成果と課題をまとめる。その際、活動や学習の流れが分かるよう、子どもたちの活動の様子や子どもたちが記述したワークシートなどを資料として差し込んだものを作成する。

5 実践検討の方法

低・中・高学年の3つの部会に分かれて活動をする。授業の事前検討・参観・事後検討を部会で行い、実践の進捗状況を報告し合いながら、柔軟に修正を加えて実践を進めていく。